

「健康危機管理教材作成・運用検討委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長：荒木田美香子（川崎市立看護大学）

委員：感染管理専門チーム

渡部節子（湘南医療大学）、遠藤英子（国際医療福祉大学大学院）、

三橋睦子（国際医療福祉大学）、佐藤淑子（大阪公立大学）、岡田忍（川崎市立看護大学）

教材開発運用チーム

荒木田美香子、春日広美（千葉県立保健医療大学）、春山早苗（自治医科大学）、

鈴木美和（三育学院大学）、川上和美（川崎市立看護大学）

2) 協力者

平尾百合子（順天堂大学非常勤講師）、佐藤ゆか（元愛知医科大学）、

堀口一明（株式会社医学書院）

2. 趣旨

JANPU が 2021 年度より進めてきた大学院、リカレント教育における感染症に強い看護人材育成に向けた看護学教育事業－感染看護に関するモデル教育プログラム－（2021 年度事業活動報告書参照）に加えて、2023 年～2025 年度の文部科学省「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業」の一環として、感染症や自然災害等の健康危機管理に対応できる保健人材の養成を目指し、すべての看護学教育に携わる教員及び学生が使用することのできる e-learning 教材を開発し、維持・管理し、広報することを趣旨とする。

3. 活動経過

1) 委員会の開催

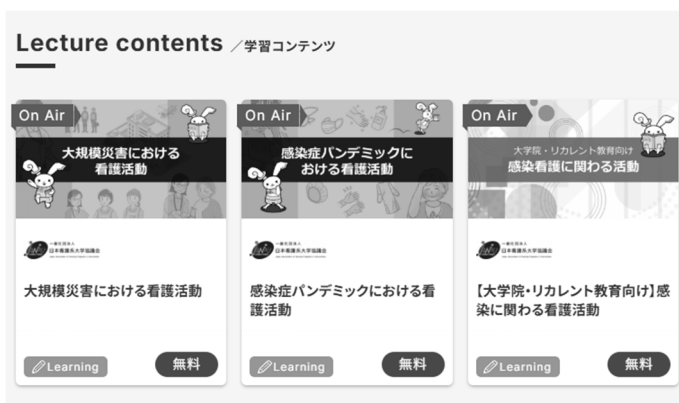
広報活動、教材作成活動、次年度の体制整備などを中心に 4 回の委員会を開催した。

2) 広報活動

日本感染看護学会学術集会にてフライヤーの配置、日本看護学教育学会等でワークショップを開催するなどの広報活動を行った。また、本委員会協力者の堀口一明様（株式会社医学書院）より、看護教育、保健師ジャーナル、看護管理のジャーナルへの広報及び医学界新聞への本教材を紹介する座談会を掲載していただいた。

3) 教材作成活動

学部用教材は、2025 年度にすべて作成を完了した。今年度は活用上の問い合わせや意見、JV-Campus のグループ機能の登録希望を受け付けるページを作成し、運用した。グループ機能登録大学は 3 大学であった。JV-Campus 上の登録者は徐々に増加し、大規模災害における看護活動が 1,476 人、感染症パンデミックにおける看護活動が 1,066 人（2026 年 2 月末現在）であった。



JV-Campus 上の本教材のサムネイル

【大学院・リカレント教育向け】感染に係る看護活動は、結核、薬剤耐性菌（ESBL）、COVID-19、新興感染症の4単元16項目から構成されている。感染管理専門チームと教材開発運用チームが検討を重ね、また委託業者の協力も得て、全項目完成へ向け作成を進めた。右図はJV-Campus上の【大学院・リカレント教育向け】教材の説明ページである。



4) マニュアル、教材等の見直し

【大学院・リカレント教育向け】のマニュアルを作成中である。学部用のマニュアルは特に修正は行っていない。教材は災害対策基本法の改正に伴う教材の修正を一部行った。

5) 次年度体制の検討

2023年度より、e-learning教材の作成を進めていたが、2025年度で教材作成は完了となる。しかしながら、その教材広報および教材の管理、部分修正等の必要性があるため、委員会の存続が理事会で承認された。

4. 今後の課題

【大学院・リカレント教育向け】教材の事前事後テスト、活用マニュアルを掲載し、活用環境を整える。広報としては、JANPU 会員校向けワークショップや看護系学会などでの活動を展開していく。さらに教材に対するユーザー調査を行い、活用環境の向上を図っていく。